

写真1 Pebeoの絵具で絵付けしたキャンドルスタンド



今回ご登場頂く遠藤綾子さんはSeptember25 Art Studio主宰。ご自宅のある新潟と、東京都内に拠点を構え、グラスペイントや、特別な道具で布地に絵を描く、ファブリックペイントの教室をそれぞれ開催。ペイントを通して「心と暮らしの彩り」を提案しながら作品制作に取り組んでおられる。

面白いのは、グラスペイントというと、キャンドルスタンドやお皿、ワイングラスのような器に描くのが一般的（写真1）であろうが、遠藤

写真2 新潟市角田浜のアトリエの窓。アートステッカーを貼った窓。設置後、まったく褪色していないといつてもいい。

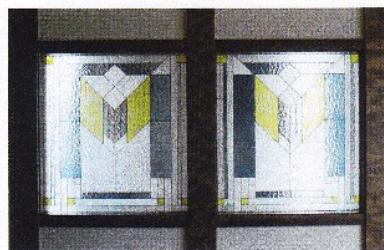


写真3 新潟市内の新築物件。フランク・ロイド・ライト風の住宅に合わせて、ライトのデザインをアレンジして描いた窓。実は直線を描くのが一番難しいのだと。いずれも使用した絵具は、ガラス専用焼付絵具ヴィトレア160

## くらしスタイル

### 光を通すペイントでオリジナルの窓づくり 子育て終えたミセス層を中心にひそかなブームに

遠藤綾子さん（September25 Art Studio主宰）

さんの教室では、なんと天窓やドアの明り取り窓などのガラスに、ステンドグラス風のアートを描くのだと（写真2～3）。

遠藤さんが愛用しているPebeoの絵具は発色が美しく、光を透過するので、日差しを受けると、ステンドグラスと同じような、カラフルな影が室内に映る。最近は、口コミで評判が伝わって、店舗、一般住宅の窓に絵を描いて欲しいという依頼も増えているという。

他方、ファブリックペイントでは、昔の高価な着物や、親から受け継いだ大事なウェディングドレスなどに、布に絵付けが出来る絵具でデザインを加えて現代に蘇らせ、好評を得ている（写真4～5）。

また写真6～7は、新潟市内のスタジオで使用している、ロールスクリーンである。花の絵はプリントではなく、もともと無彩色の生地に、ドライクリーニングが可能な「セタシルク」という絵具を使って、フリー手で描いたもの。裏から見ても、表から見ても発色が美しく、これが評判になって、看板を出していない

のに、習いたいとか、絵を描いて欲しいとかいう人が増えたとのことだ。

教室の生徒さんは、比較的暮らし向きに余裕が出来たミセス層が多いが、「窓のロールスクリーンを見て、突然入って来る人が多いですね」と遠藤さん、住宅のデザインもシンプルが当たり前の世時だが、「女性と男性は、インテリアに対する感覚が全く違います。ステンドグラスにしたいと言うと、ご主人には大概反対されるそうですが、奥様たちは小さな反乱を起こしているのですね、わざわざご自宅の天窓を外して、絵を描いて欲しいと、持って来られた方もいらっしゃいます」と笑う。



ちなみに、京都の美術短大でインテリアデザインを専攻した遠藤さん、卒業後、関西の大手家電メーカーで、開発デザインの仕事を従事したが、「水が美味しいなくて（笑）」、故郷・新潟にUターン。今度は地元タウン情報誌の企画営業として、婿入りした若手商店主の会を作り、地域活性化のため様々な企画を展開したり、編集制作会社で機関誌の編集に携わったり。1994年には独立して、女性向けのスキルアップ、フィニッシングセミナーに関す

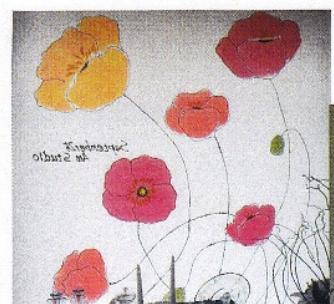


写真6 大評判となった新潟市内のスタジオのロールスクリーン。色柄のない真っ白な生地にミッドセンチュリー風の花をフリー手で描いた。使用した絵具は、ファブリック絵具「セタシルク」。水彩タッチの表現が出来る

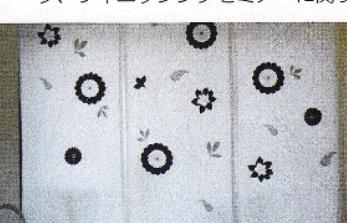


写真7 同じくロールスクリーン。  
こちらはファブリック絵具「セタカラー」を使用。どちらの絵具も、光を通すことが最大の特長で、無彩色の生地が、裏から見ても発色が美しいオリジナルファブリックに変わる



写真4 ドレスへの絵付け。モデルは遠藤綾子さんご自身



写真5 大切なウェディングドレスを現代に蘇らせた

る企画運営のプランナーとして活動を開始した。実はフランス・ペベオ社のガラス絵具やファブリック絵具と出会ったのも、ちょうど同じ頃のこと。趣味としてコツコツ製作を始めた訳だが、その出来栄えは遠く南仏プロヴァンスのペベオ社の認めるところとなり、2003年にはMaster Teacherに認定された。

現在は、「教室だけで手一杯」とのことだが、今年は2月末の仙台作品展や体験サロン開催。4月末のホビーショー出展。5月は手作りに特化している西武百貨店渋谷店A館7階での展示会、ワークショップ開催。6月フランス・イタリア研修ツアーなど、予定が目白押しだ。また今後、関心をもってくれるインテリア専門店やメーカーのショールームがあれば、ワークショップを開催していきたい、とのことだ。